

本場食品衛生検査所

理化学検査情報

Vol.48 2018 No.2
平成30年1月発行



今号の内容 平成29年7月～9月までに検査した
残留農薬検査結果
放射性物質検査結果
総水銀検査結果
貝毒検査結果
抗菌性物質検査結果

横浜市健康福祉局中央卸売市場本場食品衛生検査所
TEL 045-441-1153

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kensajo/>

1 残留農薬検査

平成 29 年 7 月から 8 月までの残留農薬検査は、国産農産物 36 検体（16 種）について実施しました。このうち農薬を検出した検体数は 14 検体（24 農薬）でしたが、残留基準値を超えた検体はありませんでした。

農産物別検体数

品名	検体数	農薬検出検体数
1 インゲン	2	
2 キャベツ	4	1
3 キュウリ	5	3
4 コマツナ	1	1
5 サツマイモ	1	
6 ジャガイモ	1	
7 ダイコンの根	5	
8 チンゲンサイ	1	
9 トウガン	2	
10 ナシ	2	2
11 ナス	1	
12 ネギ	3	1
13 ハクサイ	1	1
14 ピーマン	2	1
15 ブドウ	1	1
16 レタス	4	3
計	36	14

生産地別検体数

産地	検体数	農薬検出検体数
1 北海道	4	
2 青森県	2	
3 岩手県	3	1
4 秋田県	1	
5 山形県	4	
6 福島県	1	1
7 茨城県	4	2
8 栃木県	1	1
9 群馬県	6	3
10 神奈川県	3	1
11 山梨県	1	1
12 静岡県	1	1
13 長野県	4	3
14 香川県	1	
計	36	14

国産農産物検査結果

検体名	産地	収去日	収去部署	検査項目	検出値	(検出限界値)	(基準値)	ppm
1 ナス	群馬県	7月6日	南部市場	不検出				
2 ピーマン	山形県	7月6日	南部市場	不検出				
3 ネギ	静岡県	7月6日	南部市場	ルフエヌロン	0.04	(0.01)	(2以下)	
4 キュウリ	山形県	7月6日	南部市場	不検出				
5 インゲン	茨城県	7月6日	南部市場	不検出				
6 トウガン	神奈川県	8月17日	南部市場	不検出				
7 キュウリ	神奈川県	8月17日	南部市場	クロルフエナピル	0.05	(0.01)	(0.5以下)	
8 ダイコンの根	北海道	8月17日	南部市場	不検出				
9 キャベツ	群馬県	8月17日	南部市場	不検出				
				ルフエヌロン	0.04	(0.01)	(1以下)	
				ボスカリド	0.11	(0.01)	(40以下)	
10 ハクサイ	長野県	8月17日	南部市場	インドキサカルブ	0.07	(0.01)	(1以下)	
				メトキシフェノジド	0.03	(0.01)	(7以下)	
				ピラクロストロビン	0.02	(0.01)	(3以下)	
11 ブドウ	山梨県	8月24日	本場市場	イミダクロプリド	0.13	(0.01)	(3以下)	
12 インゲン	秋田県	8月24日	本場市場	不検出				
13 キュウリ	岩手県	8月24日	本場市場	ボスカリド	0.18	(0.01)	(5以下)	
14 トウガン	神奈川県	8月24日	本場市場	不検出				
15 サツマイモ	香川県	8月24日	本場市場	不検出				
16 レタス	長野県	8月24日	本場市場	クロチアニジン	0.03	(0.01)	(20以下)	
				ジメトモルフ	0.01	(0.01)	(10以下)	
17 ダイコンの根	青森県	8月24日	本場市場	不検出				
18 ネギ	山形県	9月4日	本場市場	不検出				
19 レタス	長野県	9月4日	本場市場	ジメトモルフ	0.15	(0.01)	(10以下)	

検体名	産地	収去日	収去部署	検査項目	検出値	(検出限界値)	(基準値)	ppm
20	キャベツ	群馬県	9月4日	本場市場	ボスカリド	0.03	(0.01)	(5以下)
21	ナシ	栃木県	9月4日	本場市場	ビフェントリン	0.01	(0.01)	(0.5以下)
22	チンゲンサイ	茨城県	9月4日	本場市場	不検出			
23	ピーマン	茨城県	9月4日	本場市場	アゾキシストロビン	0.01	(0.01)	(3以下)
					ボスカリド	0.02	(0.01)	(10以下)
24	キュウリ	群馬県	9月4日	本場市場	プロシモドン	0.06	(0.01)	(5以下)
25	ダイコンの根	北海道	9月11日	保土ヶ谷区	不検出			
26	キュウリ	群馬県	9月11日	保土ヶ谷区	不検出			
27	ダイコンの根	北海道	9月11日	西区	不検出			
28	キャベツ	岩手県	9月11日	西区	不検出			
29	レタス	長野県	9月11日	中区	不検出			
30	キャベツ	岩手県	9月11日	中区	不検出			
31	ジャガイモ	北海道	9月11日	中区	不検出			
32	コマツナ	茨城県	9月20日	南部市場	イミダクロプリド	0.08	(0.01)	(5以下)
33	レタス	群馬県	9月20日	南部市場	ボスカリド	0.12	(0.01)	(40以下)
					ピラクロストロビン	0.02	(0.01)	(2以下)
34	ネギ	山形県	9月20日	南部市場	不検出			
35	ナシ	福島県	9月20日	南部市場	ビフェントリン	0.01	(0.01)	(0.5以下)
					クレソキシムメチル	0.02	(0.01)	(5以下)
					クロルフェナピル	0.04	(0.01)	(1以下)
					ボスカリド	0.02	(0.01)	(3以下)
36	ダイコンの根	青森県	9月20日	南部市場	不検出			

検出した農薬について

農薬名	種類	特徴
1 アゾキシストロビン	ストロビルリン系殺菌剤	1992年に開発された。ミトコンドリアのチトクロームbc1複合体のQo部位に結合することで電子伝達系を阻害し、菌の呼吸を阻害すると考えられる。なお、本化合物の有効成分は立体異性体のうちE体のみである。
2 イミダクロプリド	クロロニコチネル系殺虫剤	作用機序はニコチン性アセチルコリン受容体に対するアゴニスト作用である。日本では1992年に初回農薬登録されている。
3 インドキサカルブ	オキサジアジン系殺虫剤	1990年に米国で開発された。作用機序は、昆虫の神経軸索に作用し、神経膜のナトリウムチャンネルの機能を阻害して神経系を麻痺させ、昆虫を死に至らしめるものとされている。日本では殺菌活性を示す光学異性体であるS体の比率を上げた「インドキサカルブMP」として2001年に初回農薬登録された。
4 クレソキシムメチル	ストロビルリン系殺菌剤	作用機構はミトコンドリア内のチトクローム電子伝達系阻害による呼吸障害で、結果として孢子発芽および菌糸伸長を阻害すると考えられている。日本では1997年に初めて農薬登録された。
5 クロチアニジン	ネオニコチノイド系殺虫剤	1988年に日本企業で開発された。作用機構は昆虫中枢神経系のニコチン性アセチルコリン受容体に対するアゴニスト作用である。日本では2002年に初めて農薬登録された。

農薬名	種類	特徴
6 クロルフェナピル	ピロール環を有する殺虫剤 (防ダニ剤)	1998年に開発され、作用機序はミトコンドリアにおける参加的リン酸化反応のうち、リン酸化のみを阻害し、酸化リン酸化を共役阻害することによって殺虫作用を示すと推察されている。
7 ジメトモルフ	ケイ皮酸誘導体殺菌剤	ジメトモルフとはジメトモルフ (E 体) 及びジメトモルフ (Z 体) の和をいう。 1983年にドイツで開発された。作用機構は菌類の菌糸発育阻害作用及び胞子形成阻害作用である。海外では米国、EU、アジア等の多くの国で登録されており、日本では1997年1月に初めて農薬登録された。
8 ビフェントリン	ピレスロイド系殺虫剤	1977年に米国で開発された。作用機序は昆虫の神経軸索の神経膜に作用し、ナトリウムチャンネルの働きを乱し、神経刺激の軸索伝導を阻害し、昆虫を死に至らしめる。日本では1992年に初回農薬登録されている。
9 ピラクロストロビン	ストロビルリン系殺菌剤	1993年に開発された。ミトコンドリア内のチトクローム電子伝達系阻害による呼吸阻害により、殺菌活性を示す。外国ではスイス、ドイツ、フランス等で登録されている。日本では2006年9月に初回登録された。
10 フェンプロパトリン	ピレスロイド系殺虫剤	作用機序は、昆虫の神経膜のナトリウムイオン透過性を変化させ、最終的に神経線維の興奮伝導を抑制である。
11 プロシミドン	ジカルボキシイミド系殺菌剤	植物病原菌 (灰色かび病、菌核病等) に対し、菌糸の伸張育成を阻害すると考えられている。日本では1981年に初めて農薬登録された。
12 ボスカリド	アニリド系殺菌剤	1992年に発見された。ミトコンドリア内膜のコハク酸脱水素酵素系複合体の電子伝達を阻害することで灰色かび病、菌核病に効果を示す。日本では2005年に初めて農薬登録された。
13 メトキシフェノジド	ベンゾイルヒドラジン系殺虫剤	米国で開発された。昆虫の幼虫にエクダイソン様の作用を示し、異常脱皮を促すことにより殺虫効果を現す。日本では2001年に初回農薬登録された。
14 ルフェヌロン	ベンゾイルフェニルウレア系殺虫剤	昆虫表皮の主成分であるキチン質の合成を阻害し、幼虫の脱皮阻害を引き起こすことで殺菌作用を示す。日本では1998年に初回農薬登録された。

参考 内閣府食品安全委員会 食品安全情報システム 評価書
環境省 水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準について
農薬工業会

2 放射性物質検査

平成 29 年 7 月から 9 月までの放射能検査は、水産物 39 検体、農産物 10 検体、福祉保健センターからの依頼検査 16 検体の合計 65 検体について実施しました。放射性物質を検出した検体はありませんでした。

(1) 水産物

魚種別検体数

検体名	検体数	検体名	検体数
1 アイナメ	1	10 ブリ(ワラサ)	6
2 カツオ	5	11 マアジ	3
3 キンメダイ	4	12 マサバ	1
4 コノシロ(コハダ)	2	13 マダラ(フィレ)	2
5 サケ	1	14 マツカワカレイ	1
6 サワラ	1	15 ミズダコ	2
7 シログチ(イシモチ)	1	16 ムツ	1
8 ヒラマサ	1	17 メカジキ(フィレ)	6
9 ヒラメ	1	計	39

産地別検体数

産地	検体数
1 北海道	1
2 青森県	7
3 岩手県	6
4 宮城県	12
5 茨城県	2
6 千葉県	3
7 神奈川県	8
計	39

水産物検査結果

検体名	産地	漁獲水域	収去日	結果(Bq/kg)			備考
				Cs-134	Cs-137	Cs 合計	
1 ミズダコ	青森県	青森県沖	7月7日	<0.668	<0.877	検出限界未満	天然
2 マダラ(フィレ)	青森県	青森県沖	7月7日	<0.715	<0.754	検出限界未満	天然
3 ブリ(ワラサ)	青森県	青森県沖	7月7日	<0.691	<0.916	検出限界未満	天然
4 メカジキ(フィレ)	岩手県	三陸北部沖	7月14日	<0.857	<1.02	検出限界未満	天然
5 アイナメ	岩手県	三陸北部沖	7月14日	<0.701	<0.759	検出限界未満	天然
6 ヒラマサ	千葉県	千葉県沖	7月14日	<0.860	<0.775	検出限界未満	天然
7 カツオ	宮城県	宮城県沖	7月14日	<0.877	<0.748	検出限界未満	天然
8 メカジキ(フィレ)	宮城県	宮城県沖	7月20日	<0.771	<0.897	検出限界未満	天然
9 ブリ(ワラサ)	青森県	青森県沖	7月20日	<0.821	<0.997	検出限界未満	天然
10 マサバ	青森県	青森県沖	7月20日	<0.913	<0.733	検出限界未満	天然
11 メカジキ(フィレ)	宮城県	宮城県沖	7月28日	<0.749	<0.898	検出限界未満	天然
12 カツオ	宮城県	宮城県沖	7月28日	<0.709	<0.898	検出限界未満	天然
13 マアジ	神奈川県	神奈川県沖	7月28日	<0.641	<0.787	検出限界未満	天然
14 ムツ	神奈川県	神奈川県沖	7月28日	<0.820	<0.753	検出限界未満	天然
15 ミズダコ	青森県	青森県沖	8月3日	<0.893	<0.883	検出限界未満	天然
16 カツオ	宮城県	宮城県沖	8月3日	<0.676	<0.754	検出限界未満	天然
17 メカジキ(フィレ)	宮城県	宮城県沖	8月3日	<0.802	<0.941	検出限界未満	天然
18 マアジ	神奈川県	神奈川県沖	8月16日	<0.799	<1.01	検出限界未満	天然
19 コノシロ(コハダ)	千葉県	千葉県沖	8月16日	<0.717	<0.756	検出限界未満	天然
20 キンメダイ	神奈川県	神奈川県沖	8月16日	<0.878	<0.817	検出限界未満	天然
21 カツオ	宮城県	宮城県沖	8月18日	<0.793	<0.828	検出限界未満	天然
22 ブリ(ワラサ)	岩手県	岩手県沖	8月18日	<0.726	<0.807	検出限界未満	天然
23 マツカワカレイ	北海道	北海道沖	8月18日	<0.677	<0.847	検出限界未満	天然
24 キンメダイ	茨城県	千葉県沖	8月18日	<0.709	<0.815	検出限界未満	天然
25 キンメダイ	神奈川県	神奈川県沖	8月25日	<0.842	<0.804	検出限界未満	天然
26 シログチ(イシモチ)	神奈川県	神奈川県沖	8月25日	<0.770	<0.996	検出限界未満	天然
27 ブリ(ワラサ)	宮城県	宮城県沖	8月25日	<0.815	<0.854	検出限界未満	天然
28 カツオ	宮城県	宮城県沖	9月6日	<0.879	<0.985	検出限界未満	天然
29 ブリ(ワラサ)	青森県	青森県沖	9月6日	<0.697	<0.752	検出限界未満	天然
30 サケ	岩手県	岩手県沖	9月6日	<0.595	<0.897	検出限界未満	天然
31 ヒラメ	茨城県	千葉県沖	9月6日	<0.569	<1.01	検出限界未満	天然

検体名	産地	漁獲水域	収去日	結果 (Bq/kg)			備考
				Cs-134	Cs-137	Cs 合計	
32 マアジ	神奈川県	神奈川県沖	9月15日	< 0.614	< 0.927	検出限界未満	天然
33 コノシロ(コハダ)	千葉県	千葉県沖	9月15日	< 0.831	< 1.05	検出限界未満	天然
34 マダラ(フィレ)	岩手県	三陸北部沖	9月15日	< 0.900	< 0.821	検出限界未満	天然
35 メカジキ(フィレ)	宮城県	宮城県沖	9月15日	< 0.651	< 0.893	検出限界未満	天然
36 キンメダイ	神奈川県	神奈川県沖	9月29日	< 0.812	< 0.723	検出限界未満	天然
37 サワラ	岩手県	三陸北部沖	9月29日	< 0.900	< 0.948	検出限界未満	天然
38 プリ(ワラサ)	宮城県	宮城県沖	9月29日	< 0.696	< 0.801	検出限界未満	天然
39 メカジキ(フィレ)	宮城県	宮城県沖	9月29日	< 0.669	< 0.891	検出限界未満	天然

(2) 農産物検査結果

農産物別検体数

検体名	検体数
1 キュウリ	3
2 キャベツ	1
3 サツマイモ	1
4 トマト	1
5 ナシ	1
6 ピーマン	1
7 ブドウ	1
8 レンコン	1
計	10

産地別検体数

都道府県	検体数
1 岩手県	1
2 秋田県	1
3 山形県	1
4 福島県	5
5 茨城県	2
計	10

農産物検査結果

検体名	産地	収去日	結果 (Bq/kg)			備考
			Cs-134	Cs-137	Cs 合計	
1 トマト	福島県	7月12日	< 0.691	< 0.850	検出限界未満	ハウス
2 キュウリ	福島県	7月12日	< 0.967	< 0.834	検出限界未満	露地
3 ピーマン	福島県	7月12日	< 0.963	< 1.09	検出限界未満	ハウス
4 ブドウ	山形県	8月10日	< 0.805	< 0.867	検出限界未満	露地
5 キャベツ	岩手県	8月10日	< 0.699	< 0.680	検出限界未満	露地
6 サツマイモ	茨城県	8月10日	< 0.641	< 0.809	検出限界未満	露地
7 ナシ	福島県	9月22日	< 0.643	< 0.623	検出限界未満	露地
8 キュウリ	福島県	9月22日	< 0.640	< 0.945	検出限界未満	露地
9 レンコン	茨城県	9月22日	< 0.727	< 0.825	検出限界未満	露地
10 キュウリ	秋田県	9月22日	< 0.767	< 0.742	検出限界未満	露地

(3) 福祉保健センターからの依頼検査結果

検体名	食品分類	産地	依頼部署	買取日	結果 (Bq/kg)		
					Cs-134	Cs-137	Cs 合計
1 牛乳	牛乳	神奈川県	金沢区	7月18日	< 0.824	< 0.931	検出限界未満
2 牛乳	牛乳	神奈川県	金沢区	7月18日	< 0.867	< 0.783	検出限界未満
3 乳児用食品	乳児用食品		金沢区	7月18日	< 0.743	< 0.531	検出限界未満
4 乳児用食品	乳児用食品		金沢区	7月18日	< 2.79	< 2.73	検出限界未満
5 精米	一般食品		港南区	7月18日	< 0.690	< 0.749	検出限界未満
6 乳飲料	牛乳	神奈川県	港南区	7月18日	< 0.897	< 0.594	検出限界未満
7 飲料水	飲料水		港南区	7月18日	< 0.781	< 0.763	検出限界未満
8 清涼飲料水	乳児用食品		港南区	7月18日	< 2.54	< 2.75	検出限界未満
9 乳児用食品	乳児用食品		鶴見区	8月24日	< 2.63	< 2.77	検出限界未満
10 ひたし豆	一般食品	栃木県	鶴見区	8月24日	< 1.43	< 1.46	検出限界未満

検体名	食品分類	産地	依頼部署	買取日	結果 (Bq/kg)		
					Cs-134	Cs-137	Cs 合計
11 牛乳	牛乳	栃木県	鶴見区	8月28日	< 0.646	< 0.687	検出限界未満
12 牛乳	牛乳	茨城県	鶴見区	8月28日	< 0.677	< 0.806	検出限界未満
13 牛乳	牛乳	神奈川県	栄区	8月28日	< 0.642	< 0.685	検出限界未満
14 牛乳	牛乳	東京都	栄区	8月28日	< 0.570	< 0.878	検出限界未満
15 調製粉乳	乳児用食品	東京都	栄区	8月28日	< 1.25	< 1.60	検出限界未満
16 乳児用食品	乳児用食品		栄区	8月28日	< 2.66	< 2.34	検出限界未満

3 水銀検査

平成 29 年 7 月から 9 月までの魚介類の総水銀検査は、15 検体について実施しました。このうち三重県産ハチビキから総水銀を 0.53ppm 検出したため、本市衛生研究所でメチル水銀検査を行いました。その結果メチル水銀を 0.43ppm 検出したため、このハチビキは魚介類の水銀の暫定的規制値超過となり生産地を所轄する自治体に情報提供を行いました。

(魚介類の水銀の暫定的規制値：総水銀 0.4ppm かつメチル水銀 0.3ppm)

水銀検査結果

検体名	産地	収去日	総水銀 検出値	(検出限界値)	メチル水銀 検出値	(検出限界値)	(ppm)
1 ウマヅラハギ	茨城県	7月19日	0.02	(0.01)	-	-	
2 ハチビキ	三重県	7月19日	0.53	(0.01)	0.43	(0.08)	
3 クロウシノシタ	愛知県	7月19日	0.02	(0.01)	-	-	
4 イサキ	長崎県	7月19日	0.17	(0.01)	-	-	
5 ホウボウ	愛媛県	7月19日	0.05	(0.01)	-	-	
6 メゴチ	愛知県	8月2日	0.01	(0.01)	-	-	
7 マイワシ	北海道	8月2日	0.02	(0.01)	-	-	
8 マダイ	青森県	8月2日	0.16	(0.01)	-	-	
9 マコガレイ	青森県	8月2日	0.02	(0.01)	-	-	
10 アカメバル	青森県	8月2日	0.04	(0.01)	-	-	
11 サワラ	福井県	9月21日	0.02	(0.01)	-	-	
12 サンマ	北海道	9月21日	0.07	(0.01)	-	-	
13 マサバ	青森県	9月21日	0.06	(0.01)	-	-	
14 ババガレイ (ナメタガレイ)	岩手県	9月21日	0.08	(0.01)	-	-	
15 プリ(イナダ)	岩手県	9月21日	0.03	(0.01)	-	-	

4 貝毒検査

平成 29 年 7 月から 9 月までの貝毒検査は、下痢性、麻痺性ともに国産 10 検体、輸入 3 検体、合計 13 検体、4 種の貝について実施しました。LC/MS/MS による機器分析法により下痢性、マウス法により麻痺性を検査しましたが、規制値（下痢性貝毒 0.16mg オカダ酸当量/kg 以下、麻痺性貝毒 4MU/g 以下）を超える検体はありませんでした。

なお、下痢性貝毒について、従来マウス法による検査を行ってきましたが、平成 28 年 4 月から LC/MS/MS による機器分析法に変更しました。

貝毒検査結果

検体名	産地	収去日	下痢性貝毒 (mg オカダ酸当量/kg)	(検出限界値)	麻痺性貝毒 (MU/g)	(検出限界値)
1 アサリ	神奈川県	7 月 26 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
2 アカガイ	中国	7 月 27 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
3 ホタテガイ	宮城県	7 月 27 日	0.07	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
4 ホタテガイ	宮城県	7 月 27 日	0.05	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
5 ハマグリ	三重県	7 月 27 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
6 ハマグリ	千葉県	8 月 31 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
7 ホタテガイ	宮城県	8 月 31 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
8 アカガイ	中国	8 月 31 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
9 ホタテガイ	宮城県	8 月 31 日	0.02	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
10 ハマグリ	三重県	9 月 28 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
11 アカガイ	中国	9 月 28 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
12 ホタテガイ	宮城県	9 月 28 日	0.02	(0.01)	1.75 未満	(1.75)
13 ホタテガイ	岩手県	9 月 28 日	不検出	(0.01)	1.75 未満	(1.75)

5 抗菌性物質検査

平成 29 年 7 月から 9 月までの抗菌性物質検査は、うなぎ蒲焼 5 検体について実施しました。抗菌性物質を検出した検体はありませんでした。

抗菌性物質検査結果

検体名	原料原産地	収去日	結果
1 うなぎ蒲焼	静岡県	7 月 18 日	不検出
2 うなぎ蒲焼	中国	7 月 18 日	不検出
3 うなぎ蒲焼	中国	7 月 18 日	不検出
4 うなぎ蒲焼	中国	7 月 18 日	不検出
5 うなぎ蒲焼	静岡県	7 月 18 日	不検出

残留農薬検査項目

	農薬名		農薬名		農薬名		農薬名		農薬名
1	2-(1-ナフチル)アセタミド	58	キナルホス	115	ジメトン-S-メチル	172	ビリフタリド	229	プロバルギット
2	4_CPA	59	キノキシフェン	116	ジメベピラート	173	ビリブチカルブ	230	プロビザミド
3	BHC	60	キノクラミン	117	シラフルオフェン	174	ビリプロキシフェン	231	プロビドロジャスモン
4	DDT	61	キントゼン	118	スピノサド	175	ビリミカーブ	232	プロフェノホス
5	EPN	62	クミルロン	119	スピロキサミン	176	ビリミノバックメチル	233	プロボキスル
6	MCPB	63	クレゾキシムメチル	120	ターバシル	177	ビリモホスメチル	234	プロマシル
7	TCMTB	64	クロキンセツトメキシル	121	ダイアジノン	178	ビリメタニル	235	プロモトリン
8	XMC	65	クロゾリネート	122	ダイムロン	179	ピロキロン	236	プロモキシニル
9	アイオキシニル	66	クロチアニジン	123	チアクロプリド	180	ピンクロソリン	237	プロモプロビレート
10	アクリナトリン	67	クロフォンテジン	124	チアベンダゾール	181	フィプロニル	238	プロモホスエチル
11	アザコナゾール	68	クロルフェンゾン	125	チアトキササム	182	フェナミホス	239	プロモホスメチル
12	アザメチホス	69	クロプロップ	126	チオベンカルブ	183	フェナリモル	240	フロラスラム
13	アシフルオルフェン	70	クロマゾン	127	チオメトン	184	フェントロチオン	241	ヘキサコナゾール
14	アジンホスメチル	71	クロマフェノジド	128	チフルザミド	185	フェノキサニル	242	ヘキサジノン
15	アセトクロール	72	クロメプロップ	129	テクナゼン	186	フェノキシカルブ	243	ヘキサフルムロン
16	アゾキシストロビン	73	クロランスラムメチル	130	テトラコルビンホス	187	フェノチオカルブ	244	ヘキシチアゾクス
17	アトラジン	74	クロリダゾン	131	テトラコナゾール	188	フェントリン	245	ペナラキシル
18	アニコホス	75	クロリムロンエチル	132	テトラジホス	189	フェノプロカルブ	246	ペノキサコール
19	アモリン	76	クロルエトキシホス	133	テニルコロール	190	フェンアミドン	247	ペノキスラム
20	アラクロー	77	クロルタールジメチル	134	テブコナゾール	191	フェンクロルホス	248	ヘブタクロ
21	アラマイト	78	クロルピリホス	135	テブチウロン	192	フェントエート	249	ペンシクロ
22	イサゾホス	79	クロルピリホスメチル	136	テブフェノジド	193	フェンブコナゾール	250	ペンシルフロムメチル
23	イソキサチオン	80	クロルフェナビル	137	テブフェンピラド	194	フェンプロバトリン	251	ペンゾフェナップ
24	イソキサチオンオキソン	81	クロルプロファム	138	テフルトリン	195	フェンプロビモルフ	252	ペンダイオカルブ
25	イソフェンホス	82	クロロクソン	139	デルタメトリン及びトラロメトリン	196	フェンヘキサミド	253	ペンディメタリン
26	イソプロカルブ	83	クロロネブ	140	テルブトリン	197	フェンメディファム	254	ペンフルラリン
27	イソプロチオラン	84	クロロベンジレート	141	テルブホス	198	フサライド	255	ペンフレセート
28	イプロジオン	85	シアナジン	142	トリアレート	199	ブタクロール	256	ボスカリド
29	イプロバリカルブ	86	シアノホス	143	トリクロビル	200	ブタフェナシル	257	ホスマット
30	イプロベンホス	87	ジウロン	144	トリシクラゾール	201	ブタミホス	258	ホメサフェン
31	イマザリル	88	シクラニリド	145	トリコナゾール	202	ブビリメート	259	ホルクロルフェニユロン
32	イミダクロプリド	89	ジクロスラム	146	トリデモルフ	203	ブプロフェジン	260	ホルモチオン
33	イミペコナゾール	90	シクロスルフラムロン	147	トリブホス	204	ブラザスルブロン	261	ホレート
34	インダノファン	91	ジクロトホス	148	トリフルムロン	205	フラムプロップメチル	262	マラチオン
35	インドキサカルブ	92	ジクロフェンチオン	149	トリフルラリン	206	フラメビル	263	マイクロブタニル
36	エスプロカルブ	93	ジクロホップメチル	150	トリフロキシストロビン	207	フルアクリリム	264	メカルバム
37	エタメスルフロムメチル	94	ジクロメジン	151	トルクロホスメチル	208	フルキンコナゾール	265	メソスルフロムメチル
38	エタルフルラリン	95	ジクロラン	152	ナブタラム	209	フルジオキシニル	266	メタペンズチアズロン
39	エチオフェンカルブ	96	ジクロルプロップ	153	ナブアニリド	210	フルシラゾール	267	メタラキシル及びメフェノキサム
40	エチオン	97	4,4'-ジクロロベンゾフェノン	154	ナブバミド	211	フルトラニル	268	メチダチオン
41	エトキサゾール	98	ジスルホトン	155	ニトロタールイソプロビル	212	フルトリアホール	269	トキシクロール
42	エトキシスルブロン	99	シニドエチル	156	ノバルロン	213	フルバリネート	270	トキシフェノジド
43	エトフェンブロックス	100	シハロホップブチル	157	バクロプロトラゾール	214	フルフェナセット	271	トスラム
44	エトフメセート	101	ジフェナミド	158	バラチオン	215	フルフェノクソン	272	トブレン
45	エトプロホス	102	シフルフェナミド	159	バラチオンメチル	216	フルフェンビルエチル	273	トミノストロビン
46	エトリムホス	103	ジフルフェニカン	160	ハロキシホップ	217	フルオキサジン	274	トドラクロール
47	エンドスルファン	104	ジフルペンズロン	161	ハロスルフロムメチル	218	フルミクロラックベンチル	275	メピンホス
48	エンドリン	105	シプロジニル	162	ピコリナフェン	219	フルメツラム	276	メフェンビルジェチル
49	オキサジアゾン	106	1,1,1-ジ700-2,2-ビス(4-エチルフェニル)エタン	163	ピフェノックス	220	フルリドン	277	モノクロトホス
50	オキサジキシル	107	シメコナゾール	164	ピフェントリン	221	プレチラクロール	278	モノリニユロン
51	オキサジクロメホス	108	ジメタメトリン	165	ピベロホス	222	プロシミドン	279	ラクトフェン
52	オキシフルオルフェン	109	ジメチピン	166	ピラクロストロビン	223	プロチオホス	280	リニユロン
53	オリザリン	110	ジメチリモール	167	ピラゾスルフロムエチル	224	プロバキサホップ	281	リンデン
54	カズサホス	111	ジメテナミド	168	ピラゾホス	225	プロバクロー	282	ルフェズロン
55	カルバリル	112	ジメトエート	169	ピラフルフェンエチル	226	プロバジン		
56	カルフェントラゾンエチル	113	ジメトモルフ	170	ピリダフェンチオン	227	プロバニル		
57	カルプロバミド	114	シメリン	171	ピリフェノックス	228	プロバホス		

※農作物によって検査項目は異なります。

抗生物質検査項目

オキシテトラサイクリン	クロルテトラサイクリン	テトラサイクリン
-------------	-------------	----------

合成抗菌剤、内寄生虫用剤検査項目

クロピドール	オルメプリム	スルファメキシジアジン
ダノフロキサシン	オキシリニック酸	スルファモノメキシシ
ジフロキサシン	ピロミド酸	スルファニトラン
エトバベート	ピランテル	スルファピリジン
ファムファール	ピリメタミン	スルファキノキサリン
フルベンダゾール	スルファプロモメタジンナトリウム	スルファチアゾール
フルメキン	スルファクロルピリダジン	スルファトロキサゾール
リンコマイシン	スルファジアジン	スルフィンキサゾール
マルボフロキサシン	スルファジメキシシ	スルフィンゾール
メベンダゾール	スルファジミジン	チアベンダゾール*1
メチルプレドニゾロン	スルファドキシシ	チアムリン
モランテル	スルファエトキシピリダジン	トリメプリム
ナリジクス酸	スルファメラジン	キシラジン
オフロキサシン	スルファメキサゾール	
オルビフロキサシン	スルファメキシピリダジン	

*1 畜水産物:チアベンダゾール及び5-ヒドロキシチアベンダゾールの和
 その他の食品:チアベンダゾールのみ